

# 雨水整備の手法について

整備手法としては、浸水被害の早期軽減を図るため計画降雨に対応した管渠を整備し、放流先となる下流河川の整備状況等に合わせた運用とする。

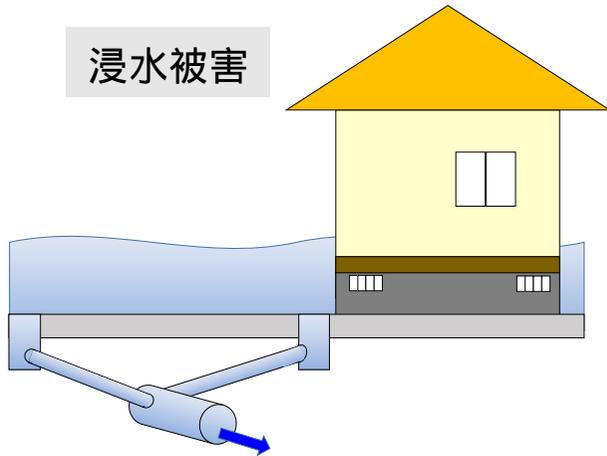
【当面】 下流河川(既存排水施設を含む)の現況排水能力の範囲内で放流し、かつ管渠内の余裕分に貯留させることで浸水被害の早期軽減を目指す。

【将来】 下流河川の整備後に、雨水を全量流下し浸水被害の解消を目指す。

## 対策効果のイメージ

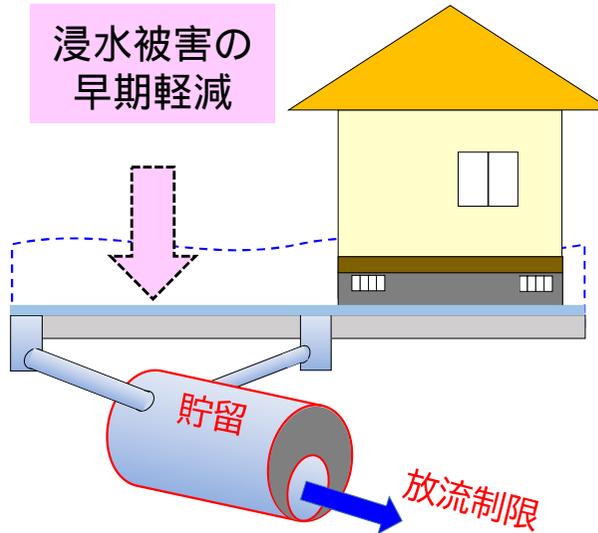
現況

浸水被害



【当面】 部分的な効果

浸水被害の  
早期軽減

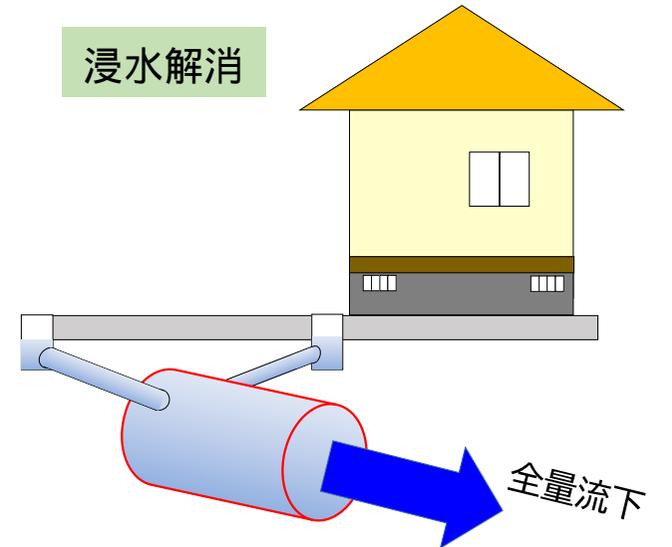


下流河川の整備状況等により  
雨水管からの放流量に制限がある。

【流下型貯留管として運用】

【将来】 最大限の効果

浸水解消



下流河川の整備後に雨水を全量流下させる。

【流下管】